



保育園安全だより

—事故報告より—

第2号

ようやく心地よい風を感じられるようになりました。今年の夏は猛暑が続き、子どもたちの健康管理に気遣いながら、保育内容の工夫も行い過ごした日々だったと思います。今回の安全便りは、4～8月に発生した各保育施設（認可保育園）の事故総数1364件について報告します。



令和7年度 事故内容集計(4～8月)

	骨折	打撲 捻挫 脱臼	外傷	掻き傷 咬傷	虫刺	誤嚥 窒息	誤飲 誤食	その他	計
0歳児	0	34	52	5	0	1	9	0	101
1歳児	4	116	149	60	0	0	5	7	341
2歳児	0	105	120	84	1	1	1	6	318
3歳児	2	57	91	40	0	0	0	9	199
4歳児	7	50	84	33	2	0	2	8	186
5歳児	6	91	92	19	1	0	3	7	219
計	19	453	588	241	4	2	20	37	1364

事故内容集計からは、0歳児から2歳児の打撲・外傷の件数が多くあげられます。その内容は、『バランスがとれずに転倒』、『友だちと遊具の取り合いから擦過傷につながった』等の事例が多く報告されました。原因はどちらも、すぐ助けられる位置に職員がいなかったこと、環境の設定が成長に合っていなかったことが挙げられます。幼児は、大きな怪我（骨折）が多く報告されています。遊びが盛り上がり、スピードが増して勢いがついてしまう等、動きが大きくなる事が原因と考えられます。楽しい遊びが怪我につながることを避けられるよう、常日頃から安全な環境（場所や職員の立ち位置）に配慮することや、子どもに合わせた声掛け、休憩の取り方がポイントとなります。

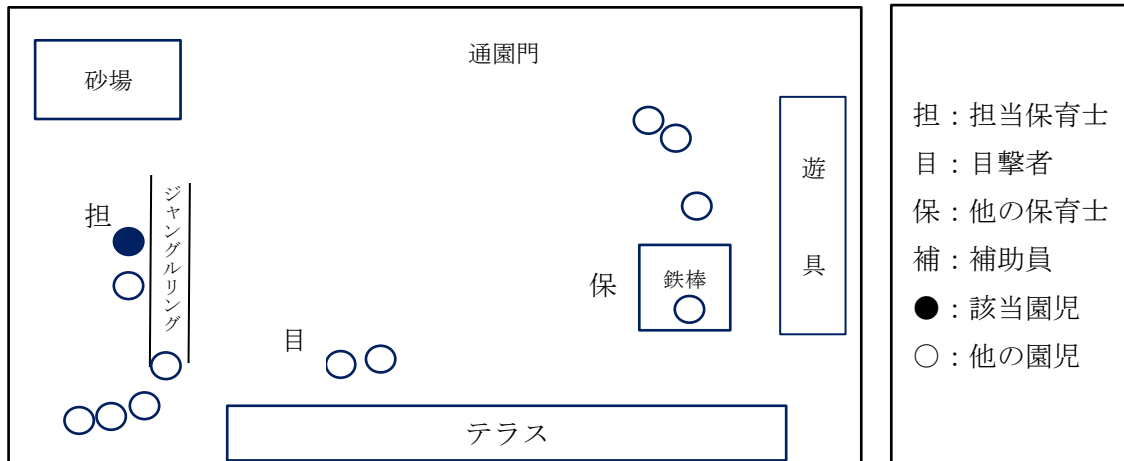
暑い夏を過ごした後の子どもたちは、心も身体も一回り大きくなったように感じます。行動範囲も広がり、園庭や散歩先等で思いもよらない事故になるケースもあります。秋は、戸外活動が活発になる時期です。慣れた場所であっても、活動場所の環境整備や安全確認を改めて行っていきましょう。また、朝夕の気温差や季節の変わり目による体調の変化もあらわれる時期です。園内や地域での感染症等の情報を保護者と共有し、早めの対策をして、健康に過ごせるようにしましょう。日々のお子さんの様子に着目し、ちょっとした変化に目を留めることで、早い手立てを講じることに繋がります。職員間で保育の話をする事は、気づきにつながり、怪我や病気に対するリスク軽減にもなります。園全体で情報共有を行い、子どもたちにとって楽しい活動を進めていきましょう。

【事例１】４歳児 発生時間 １０時４５分 <切り傷>

《発生状況》

６人程で固定遊具（ジャングルリング）を使って遊んでいた。該当園児と同時に他児が１名ジャングルリング上を渡っており、該当園児は他児の後ろをついていった。担当保育士は２人の間に立って援助していた。ジャングルリングの中間点に差し掛かった頃、該当園児の前に行く他児がゆっくりとした動きになり、該当園児が「ここ（途中）から降りる」と言った。降り方と自分で降りることができるかどうかを担当保育士と確認した上で、該当園児が降りようとジャングルリングをすり抜ける際にバランスを崩し、左臉をぶつける。

《現場図》



《原因・問題点》

- ・成長しているという自覚もあり、自力でやってみたいと思うことが増えてくる時期ではあるが、動作の難しさや園児の運動能力を考慮し、慎重に判断すべきであった。「自分で降りられる？」と尋ねるだけでなく、手助けができることや他の降り方があることなど、他の選択肢を挙げ、丁寧にかかわっていく必要があった。
- ・後日、該当園児に途中で降りたかった理由を尋ねると、途中で降りることをやってみたいという積極的な理由ではなく、怖いから早く降りたいという思いだった。日頃の遊びの様子から発言の裏にある気持ちを推測し、対応することが必要だった。

《その後の改善策》

- ・それぞれの児の運動能力や性格などを日頃からよく見て捉え、個々に応じた援助を丁寧に行っていく。
- ・子どものやりたい気持ちを尊重しながらも、子どもが自力でできること、危険なことを適切に判断していく。

園内の固定遊具で活動していた際に起きた事故です。園によって設置されている固定遊具に違いはありますが、年齢だけでなくお子さんの様子によって援助の仕方が違ってきます。今回は、事故後ではありますが、お子さん自身に途中で降りた理由を確認しています。お子さん自身が「怖かったから」という言葉を言えたこと、そこが保育の気づきにつながったことはとても良かったと感じます。お子さん一人ひとりの力量や心情を理解し、運動あそびの援助を行うようにしていきましょう。

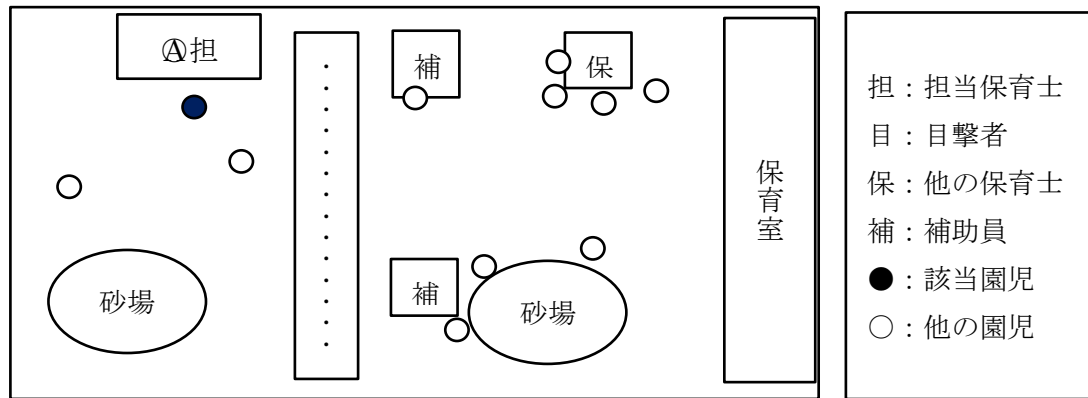


【事例2】1歳児 発生時間 9時35分 <帽状腱膜下血種：たんこぶ>

《発生状況》

1歳児のテラスでコンビカーに乗って遊んでいた。該当園児はコンビカーから立ち上がろうとしたところ、着ていた上着の一部にハンドルが引っかかる。その拍子に、コンビカーごと右側へ転倒し、右おでこをテラス（タキロン）にぶつける。

《現場図》



《原因・問題点》

- ・該当園児が転倒する際、柵越しに園庭を見ていたA児に話しかけていたため、該当園児の上着がハンドルに引っかかってしまった瞬間を見逃してしまった。
- ・コンビカーに興味があり、乗り降りを繰り返す姿があったにも関わらず、目を離してしまった。
- ・立ち上がる時に上着がハンドルに引っかかるなどの予測ができていなかった。
- ・該当園児の上着のサイズが大きかった。



《その後の改善策》

- ・一人ひとりの遊び方の特徴を再度確認していく。
- ・担任間で今回の件を振り返り、改めてコンビカーで遊ぶ際の注意点を確認する。
- ・担任間で確認したことを補助員に周知する。
- ・保護者に服のサイズについてお知らせをしていく。

コンビカーは、乳児クラスで年間通して活用している遊具です。成長とともに安定した乗り方になりますが、個人差もあります。バランスを崩しての転倒やコンビカーに慣れてスピードを出しすぎて転倒することもあります。今回は、着ていた上着がハンドルに引っかかり転倒したケースです。寒い時期には、上着を着せて戸外遊びを行うことが多くなりますが、重ね着になることで、これまでと同じような動きが難しくなることもあります。同じ活動でも季節ごとに注意すべき点が違ってきますので、保育の注意点を都度確認していきましょう。また、その際には、共に保育にあたる補助員との情報共有も行っていきたいと思います。

《帽状腱膜下血種：ぼうじょうけんまくかけっしゅ》

一般的にいわれる「たんこぶ」は皮下出血と呼ばれ、触ると硬く、およそ1～2週間で自然に吸収されています。帽状腱膜下血種は柔らかい「たんこぶ」です。皮下血種よりも治るまでに時間がかかりますが、自然に吸収され消失することが多いです。

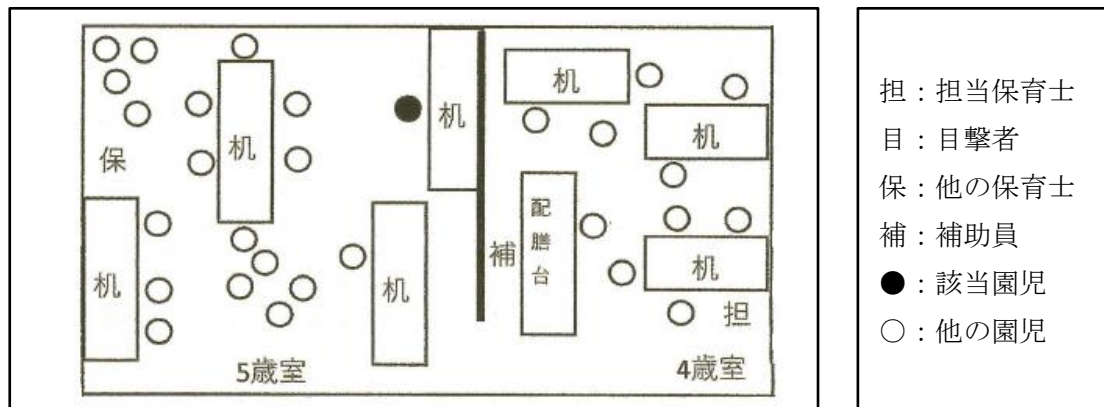
出典： 自治医科大学附属さいたま医療センター資料

【事例3】 5歳児 発生時間 12時35分頃 <右前歯 歯周囲靱帯断裂>

《発生状況》

4、5歳児夏の合同保育中。4歳児室で食事、5歳児室で食後の遊びをしていたが、5歳児8名ほどは5歳児室で食事をしていた。発生時は、半分以上の子どもたちが食事を終え5歳児室に移動してきて、食事をしている2名を除いて遊び始めているところであった。食事を終えた該当園児がお皿を片付けた際に、コロッケのおかわりがまだ残っていることに気が付き、おかわりをもらってまた5歳児室に戻って食べ始める。周りの園児と遊ぶ約束をしていたこともあり、急いで食べていた際に、箸が歯に刺さったことを4歳児室で食事をしていた担当保育士に痛いことを訴え発覚する。

《現場図》



《応急救護処置の内容》

うがいをして視診する

《原因・問題点》

- ・箸の扱いが十分でなかったにもかかわらず、遊びたい気持ちが強く、食事に集中せず急いで食べていた。

《その後の改善策》

- ・合同保育でいつもよりも人数が多い中での食事であったため、食事をする場、遊ぶ場を分け、落ち着いて食事ができるようにしていく。また、食事に集中ができていないような場合は、落ち着いて食べられるよう声をかけたり、見守っていく。
- ・箸を使い始めて慣れてきた頃でもあるので今一度箸の危険性について子どもたちと確認していく



～看護師のコメント～

今回の事例は、食事中に箸が歯肉に刺さった事例です。

子どもは、気持ちが焦ることで普段使っているものでもケガにつながることもあります。歯のケガは目視での観察だけでは、判断が難しいこともあります。出血や歯肉、子どもの訴えを観察し、早めに歯科受診しましょう。

保健マニュアル抜粋

歯・口腔の外傷

- ① 口に砂や土がついている時は流水で洗い、状態を確認し止血し、冷やすなど応急

処置をする

② 受傷の部位、程度により小児歯科、口腔外科を受診する

- ・ 歯を打って歯肉から出血がある場合は、歯をグラグラさせて確かめたりしない
- ・ 歯が折れたり、抜けたりした時は、その歯をもって、できるだけ早く小児歯科を受診する(適切な処置をすれば戻せる場合がある)
- ・ 取れた歯は、そのまま(汚れがついていても洗ったり、拭いたりしない。歯根部を触らないようにする)で、保存液(トゥースキーパー)もしくは、牛乳に入れる。(ただし牛乳アレルギーの児には使用しない)保存液などがない場合は、清潔なガーゼを水道水で濡らし乾燥させない状態で持っていく
- ・ 受診までの間、口の中や取れた歯を手指で触らないようにする

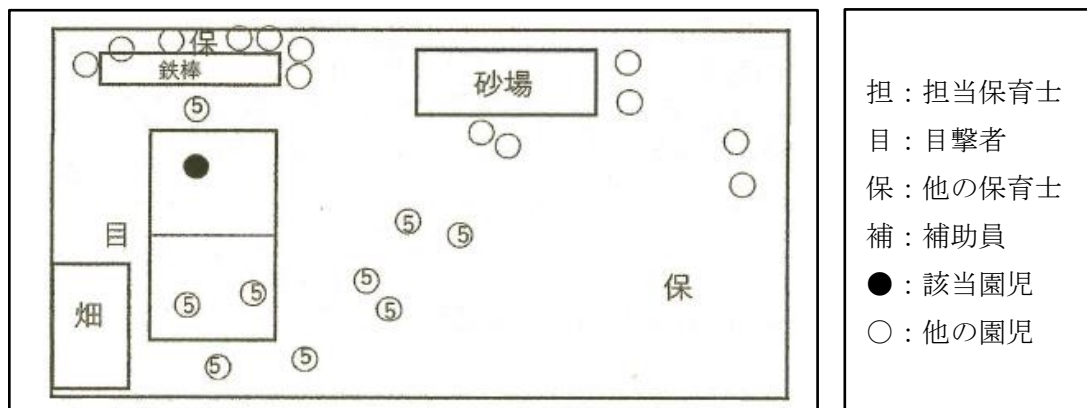


【事例4】 5歳児 発生時間 16時10分頃 <顎下裂傷>

《発生状況》

園庭で5歳児6名でドッチボールをして遊んでいた。該当園児は、外野から内野に転がってくるボールを取ろうとした際に足を滑らせ、転倒し顎を地面にぶつける。手よりも先に顎で着地し、その後両膝、両肘をする。顎が2.5センチほど切れ、じんわり出血があった。両膝、肘は出血なし。

《現場図》



《応急救護処置の内容》

ティッシュペーパーでおさえ止血する。30分以上保冷剤、冷やしタオルで冷やす。砂が外傷部分に付着していたため、脱脂綿で清潔にふき取る。また、流水では難しかったが、水を使い洗浄しその後再度クリーニングを行ったが、すべては取り除けない状態であった。

～看護師のコメント～

今回の事例は、顎の裂傷です。屋外のケガは傷口が砂等で汚れている場合が多いので流水で洗浄後、ティッシュペーパーではなく、滅菌ガーゼで止血しましょう。また、滅菌ガーゼで保護した患部を冷やす場合には、冷やしタオル等をビニールで包むことでガーゼが濡れて汚染することを避けられます。応急処置が終わったら、長い時間冷やすよりも、早急に医療機関を受診しましょう。



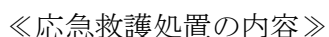
すり傷、切り傷

- ## 冷やすときの注意

患部を冷やすことは、応急処置ではありますが、傷を治す効果はありません。冷やす目的は、①出血量を抑える②腫れを抑える③痛みを和らげることになります。

《発生状況》

《現場図》



《原因・問題点》

- ・固定遊具から足を滑らせてしまうという保育士の危険予測の意識が欠けていた。
- ・危険な状況の際に保育士がすぐにフォローできる場所取りができておらず、手を伸

ばしたがタイミングが遅く転落前に支えきれなかった。

《その後の改善策》

- ・子どもの遊びの経験に油断せず、常に危険予測をする意識を持ち、保育士がすぐに手を伸ばし支えることのできる体制や立ち位置をとる。
- ・状況によって、使用できる固定遊具の個所を制限し安全に遊べる範囲で見守るようにする。

～看護師のコメント～

今回の事例は、散歩先で固定遊具から転落した事例です。高いところからの転落後は、打った部位によって骨折などの疑いや様々な疾患も考えられるため、その部位を動かさず観察することが大切です。状況によって、保育園から職員の応援を要請しその場から受診先へ向かう場合や、すぐに救急車による搬送が必要な場合もあります。散歩に出かけるが増える季節になります。散歩先で園児が受傷した場合の職員の動きや散歩リュック内の救急用品を再度確認していきましょう。

